

# 報告書の出版

学生の報告書は藤村義苗と布施藤平の第1回修学旅行報告書を皮切りに幾度か『高等商業学校学友会雑誌』『高等商業学校同窓会会誌』に掲載されたが、明治32(1899)年には高等商業学校が自ら報告書を出版した。最初に出版された修学旅行報告書は、中島誠治『阪神地方綿花綿糸業取調報告』・前田卯之助『阪神地方羊毛織物魚粕及豆粕報告』・山内恕『阪神地方米穀砂糖及窓硝子業取調報告』の3点を1冊に合冊した『阪神地方修学旅行報告書』である。名古屋地方でも同様に3名による調査が実施されたが、こちらの報告書は出版されず、原本が今日まで伝わっている。

出版の是非は教員たちによって判断された。しかし出版には予算の制約があり、ある報告書には、経費があれば印刷すべきとの教員の書き込みがなされている(内村正治郎『韓国に於ける行商及市場の制度慣習調査報告』)。結局経費を捻出することはできなかつたようで、この報告書が出版されることはなかつた。また、教員の間で意見が割れ、校長の判断で印刷を見合わせたケースや(春田茂躬『清国天津付近石炭事情調査報告』)、内容は印刷に値すると判断されたにもかかわらず、提出が遅かつたために出版することができなかつたケースもあつた(山崎主計『韓国に於ける貨幣と金融機関』)。



出版された修学旅行報告書

明治32(1899)年から大正2(1913)年にかけて、43点の修学旅行報告書が出版された。出版された報告書の原本は一部の例外を除いて残っていない。